

2026 2

ナイル

現代短歌ナイル

ナイルキャンパス／五代目神田伯梅

芙貴子ワールド／松本芙貴子
偶然の糸を遊ぶ【20】

涼さんぽ／橋本涼
涼さんのにぎわいホビ〜【10】

ショートショート【4】／鏡マリコ
松本芙貴子作品から

わたしのセレクト【12月号から】
河内圭子 井村清美

高校生短歌



NILE CAMPUS

320

伯梅閑話 — 伯龍は不思議な人 —

小村井敏子（五代目神田伯梅）

六代目神田伯龍は、善意の塊のような人で、自分のギヤラを「そんなに出していいのか」と値切ってしまう。いつも、相手のことを考えるから、弟子は持てない。弟子の生活を心配してしまふのだ。自分の出演料を薄利多売しているから、毎年一回のお客様や年何回も呼んでくださるお客様が何箇所もあって、生活の基盤は揺るがなかった。初めて会う人が苦手だから、毎年、同じところへ行き大好きな講談を語れるのは、心安らかに過ごせる元になったと思う。千代夫人も私も男の心が離れての離婚だ。千代夫人は、とことんダメ出しして七代目貞山の芸を支えた人だ。今なら非難されるだろうが、当時の感覚では「浮気は男の甲斐性」。男なら浮気するのは当たり前くらい時代のだ。とことんダメだしする妻より、「あなた、いいわあ」と褒めてくれる女性の方がよくなったのだ。そのせいで、私は褒めるのは禁止。「あの人（千代夫人）のあと七代目貞山夫人となった方」みたいだから褒めないで」と言われ、「芸がセコだ（よくない）から、なり（服装）をよくしなくちゃね」と言うとき喜ぶ。伯龍は不思議な人だった。

知らない人が苦手な伯龍。千代夫人の夫は看板の講談師。当然、知っている。私の夫だった人は、大学院の同期で、同じ大学の先輩、八代目貞山が四代目伯梅として講談師になったとき、聞きに来て、楽屋に顔を出しているのを知っている。伯龍は、「妻（敏子）のすべてを知っている」と言っていた。客として、「妻が大事だ」という話を聞かされ、妻が死んで悲しい」という話もさんざん聞かされた挙句にゲットされた。客として一緒にお酒を飲んでいいたときも、妻となつてからもセクハラ的言動はいつさいなかった。だから、長年、客でいられ、安心して妻でいられたのだと思う。伯龍は、浮気など考えたこともなかったろう。講談が恋人だったのだ。一緒に暮らして十八年、大人の男性と暮らしている感覚はなく、無邪気な小学生と暮らしているようであった。